

# 「水のカムイと出会える旅へ」

Explore the spirit of KAMUY, Deity of water

～釧路湿原・阿寒・摩周～

## 水のカムイ観光圏整備計画



平成 27 年3月

北海道 釧路市・弟子屈町



## 目次

<b>1. 基本的事項</b> .....	<b>1</b>
(1) 観光圏の区域 .....	1
① 観光圏を構成する市町名 .....	1
② 設定理由 .....	1
(2) 滞在促進地区の区域 .....	4
① 主たる滞在促進地区設定の考え方 .....	4
② 主たる滞在促進地区の区域 .....	5
(3) 観光圏整備事業の実施体制 .....	7
① 実施体制の全体像 .....	7
② 主たる滞在促進地区における事業実施体制 .....	8
(4) 観光圏整備計画の目標 .....	9
① 目標値 .....	9
② 観光地域づくりマネージャーの育成等を通じた継続的、自律的な活動体制の確立等の目標 .....	10
(5) 計画期間等 .....	10
(6) 住民その他利害関係者の意見を反映させるための措置及び反映内容 .....	10
<b>2. 観光圏の整備による観光旅客の来訪及び滞在の促進に関する 基本的な方針</b> .....	<b>11</b>
(1) 観光旅客の来訪と滞現在の現状 .....	11
(2) 当観光圏の強み・弱み .....	12
(3) 当観光圏における観光地域づくりの基本方針 .....	14
① 観光地域づくりの基本的な考え方 .....	14
② コンセプト .....	15
<b>3. 観光圏整備事業の概要</b> .....	<b>18</b>
(1) 主たる滞在促進地区を起点とする滞在プログラム企画促進、魅力向上等事業 .....	18
(2) 主たる滞在促進地区における事業 .....	19
① マーケティング調査 .....	19
② 宿泊サービスの改善・向上、魅力向上 .....	19
③ 滞在コンテンツの魅力向上 .....	20
④ 移動の利便性の向上（アクセス向上） .....	21
⑤ 情報提供の充実 .....	21
(3) 住民に対する意識啓発等事業 .....	22
(4) その他事業（プロモーション等） .....	22
<b>4. 協議会に関する資料等</b> .....	<b>23</b>
(1) 協議会委員 .....	23
(2) 釧路湿原・阿寒・摩周観光圏協議会規約 .....	25
(3) 協議結果 .....	29
<b>5. その他市町村又は都道府県が必要と認める事項</b> .....	<b>30</b>
<b>参考資料（圏域図）</b> .....	<b>32</b>

## 1. 基本的事項

### (1) 観光圏の区域

#### ① 観光圏を構成する市町名

北海道釧路市、弟子屈町

#### ② 設定理由

縄文時代の遺跡が当観光圏を構成する釧路市、弟子屈町の各地から発見されていることから、当地が太古の昔から人が住む豊かな土地であったことは推測できるが、当圏域全体について文献に登場するのは江戸時代末期、松浦武史郎「久摺(クスリ)※日誌」による。その日誌の中には、当圏域の阿寒湖畔や屈斜路湖畔、釧路川や阿寒川沿い等各地に小さなコタン(アイヌ民族の集落)が点在していた様子が記述されている。

明治以降は、全国から多数の入植者が豊富な自然資源を基に様々な産業(鉱業(硫黄、石炭)、林業、工業(製紙等)、漁業、農業等)を興すために集まった。

戦後以降は、雄大な自然や野生生物、アイヌ文化を求め、国内外から観光客が訪れる北海道の代表的観光地、温泉地、宿泊拠点としても発展してきた。

当圏域には希少で貴重な自然と生態系をもつ2つの国立公園(釧路湿原国立公園と阿寒国立公園)が存在している。釧路湿原国立公園は、日本最大のカルデラ湖である屈斜路湖から流れ出る釧路川とその支流を抱く広大な釧路湿原を有し、その広さは日本最大といわれている。アイヌ語で「湿原の神」と称され、国の特別天然記念物に指定されているタンチョウなどの水鳥をはじめ、多くの野生生物の貴重な生息地となっている。1980年に、釧路湿原はその価値が国際的に認められ、日本で最初のラムサール条約湿地となったのに続き、2005年には阿寒国立公園の阿寒湖も同登録湿地となっている。阿寒国立公園は、千島火山帯の活動によってできた阿寒・摩周・屈斜路の3つのカルデラ地形を基盤とした、火山と森と湖が織りなす豊かな原始的景観を有する公園である。阿寒湖は国の特別天然記念物に指定されているマリモが生育する湖として有名である。摩周湖は世界有数の透明度を誇る湖として、世界的な自然環境指標となっている。屈斜路湖は日本最大のカルデラ湖で、世界第2位の大きさを誇る壮大さを有している。その他、日本百名山の阿寒岳や、摩周岳、アトサヌプリ(硫黄山)等の火山やオンネトーをはじめとした湖沼群、それらを取り巻く森林と、四季折々美しい景色が見所となっている。また、これらを源とする阿寒湖温泉、川湯温泉、摩周温泉などは良質の温泉として高い人気がある。なお、阿寒湖、摩周湖は、「ミシュラン・グリーンガイド・ジャポン」改訂第2版(2011年5月発売)以降、「わざわざ旅行する価値がある」を意味する三つ星として紹介されており、外国人からも高く評価されているエリアである。「阿寒湖と周辺湖沼群」はユネスコ世界自然遺産登録候補地を目指して活動している。

また、屈斜路湖から流れ出る釧路川、阿寒湖から流れ出る阿寒川はいずれも釧路市街を通り太平洋へと注いでおり、当観光圏は湖、川、海で繋がる一体性を持った圏域となって

いる。冬になると、3つのカルデラ湖の結氷、霧氷（樹氷、粗氷、樹霜）、フロストフラワー、ダイヤモンドダストといった様々な「氷」のを見ることが出来、さらには、雨、霧、雪、氷、更には温泉などといった形態の違う「水の七変化」を体感できるエリアでもある。

文化面においては、文学では、明治 41 年、歌人石川啄木が釧路新聞の記者として釧路に滞在し、同年 1 月 21 日～4 月 5 日の 76 日間という僅かな期間の滞在ではあったが、数多くの歌を残し、釧路市内には歌碑が 27 基存在している。また、釧路市ゆかりの作家である、原田康子の「挽歌」、直木賞作家の桜木紫乃の「ホテルローヤル」などを原作とする映画ロケも数多く、ロケ地めぐりの PR を積極的に実施している。なお、原田康子の文学碑は釧路市街と川湯温泉に存在している

文化遺産では、現在、わが国では、多様で豊かな文化や異なる民族との共生を尊重する社会を形成するためのシンボルとしての「民族共生の象徴となる空間」（象徴空間）の整備推進や、アイヌ語のあいさつ「イランカラプテ」（「こんにちは」の意）を普及させるキャンペーンの展開など、アイヌ文化に対する関心が国内においても高まっているが、当圏域には、地区ごとに個性と多様性に富むアイヌ文化が存在する。阿寒地区の阿寒湖温泉には、北海道最大の阿寒湖アイヌコタンがあり、ユネスコ世界無形文化遺産として登録されたアイヌ古式舞踊をはじめとしたアイヌ文化の情報発信拠点としてわが国初のアイヌ古式舞踊専用劇場「阿寒湖アイヌシアターイコロ」がオープンし、アイヌ文化の多彩な表現と交流の場として機能している。また、アイヌ民族の自然との共生思想に通ずる「まりも祭り」は、2014 年に 65 回を数え、北海道中からアイヌ民族が集まる大イベントとしても価値がある。また、川湯・摩周地区の「屈斜路コタンアイヌ民俗資料館」には、縄文時代の発掘資料や地元アイヌの生活の様子などの貴重な史料が収集、展示されている。

現在、釧路地区は、運輸支局、開発建設部、地方環境事務所、地方裁判所、地方検察庁、地方法務局など多くの国の地方支分部局が所在し、また日本銀行釧路支店をはじめ多くの金融機関の本支店や大型小売店舗を有し、行政上及び経済上、東北海道の中心都市である。また道東の医療拠点ともなっており、この釧路地区を中心として当観光圏の生活圏も形成され、平成 23 年 6 月には、広域観光に関する連携など定住に必要な都市機能や圏域住民が真に必要な生活機能の確保、充実を図るとともに、地域活性化に努め、安心して暮らし続けられる圏域とすることを目的に、釧路市を中心市とする「釧路市・弟子屈町定住自立圏形成に関する協定書」を両市町で交わし、連携、協力し、取り組みを推進している。また、当圏域の空の玄関口である釧路空港から、3つの滞在促進地区の宿泊拠点である釧路中心地（釧路地区）、阿寒湖温泉（阿寒地区）、川湯温泉（川湯・摩周地区）までは車で、それぞれ約 35 分（約 22km）、約 1 時間（約 56km）、約 1 時間 50 分（約 96km）である。3つの滞在促進地区を三角形の頂点に例えると時計回りに、釧路中心地（釧路地区）～阿寒湖温泉（阿寒地区）は車で約 1 時間 30 分（約 74km）、阿寒湖温泉～川湯温泉（川湯・摩周地区）は車で約 1 時間（約 55km）、川湯温泉～釧路中心地は車で約 1 時間 30 分（約 90km）と周遊しながらの移動に適する距離にある。

平成 27 年 3 月 29 日に道東自動車道（北海道横断自動車道）浦幌 IC～白糠 IC 間、更に平成 27 年度に白糠 IC～阿寒 IC 間が開通予定となっており、札幌方面や、北海道の空の玄関である新千歳空港利用者など、当観光圏を訪れる観光客の増加が期待できる。また、

道東自動車道阿寒 IC の開通を契機に、同 IC に近い道の駅「阿寒丹頂の里」では、道の駅エリアの拡大や機能の拡充、新たな魅力の創出による昼間の滞在拠点化に向けて取り組むこととなり、当観光圏の滞在力強化が期待できる。

釧路地区では、釧路中心地から車で 30 分の釧路湿原ではカヌー下りや自然散策等 1 日中楽しめるメニュー(コンテンツ)を提供できる。また、釧路中心地では文化・歴史のあるまちなか散策や文化施設や産業系観光施設等を巡る複数のコースが設定されており、また、阿寒地区及び川湯・摩周地区では温泉浴場を有する施設が多数を占める。

こうした自然面、歴史文化面、生活面、さらには観光面でも一体性を有している当圏域では、平成 22 年度より「釧路湿原・阿寒・摩周観光圏」として、釧路地区、阿寒地区、川湯・摩周地区の 3 つの滞在促進地区の官民が連携し、観光地域づくりにおいても一体的な取組を展開している。主な取組としては、バス事業者および観光協会、行政等の連携により実施してきた公共交通機関での移動手段のない阿寒湖温泉と摩周駅をバスで結ぶ「阿寒・摩周号事業」や、釧路地区、阿寒地区、川湯・摩周地区でそれぞれ展開している滞在プログラムの一元的な情報発信、予約受付窓口として整備した「観光圏ポータルサイト構築事業」。さらに、Wi-Fi 通信網の整備やサイン等の多言語化等の訪日外国人の受入環境整備などが挙げられる。

今後、当圏域にしかない魅力を更に活かしながら連携を強化していくことで、来訪者にとって 2 泊 3 日を楽しむことができるエリアを実現することが可能となることから、本圏域を観光圏として設定した。

※佐藤直太郎「釧路語源考」によれば、釧路地域は江戸時代「クスリ」と呼ばれており、「クスリ」は薬、温泉という意味で、クスリ湖(屈斜路湖の原名)の河口にあるコタンなので、「クスリ」を呼ばれていたと書かれている。

## （２） 滞在促進地区の区域

### ① 主たる滞在促進地区設定の考え方

当エリアは、３つのカルデラ湖（阿寒湖、摩周湖、屈斜路湖）を有し、更に阿寒湖から流れる阿寒川、屈斜路湖から流れる釧路川は、このエリアの産業・生活の根幹を支えている。この２つの川はいずれも釧路市街を通り太平洋に注いでいる。また、当エリアで発生する大規模な霧は、寒流が流れ込む釧路沖の海に南からの暖かい空気が流れ込むことによるものでもあるが、この霧は釧路沖から内陸に押し寄せ、80km離れた屈斜路カルデラに流れ込み、逃げ場を無くして留まることにより雲海となる。すなわち、海から発生した霧が阿寒カルデラと屈斜路カルデラの森を潤し、再び水となって海に向かって流れていくという大きな水の循環が起こっている。こうしたことから、当エリアは「水」によって結ばれ、一体性を有するエリアと言える。

さらに、当エリアは冬になると、「雪」が降ることはもちろんであるが、３つのカルデラ湖の結氷、霧氷（樹氷、粗氷、樹霜）、フロストフラワー、ダイヤモンドダストといった様々な「氷」の姿も見ることができる。いわば、雨、霧、雪、氷、更には温泉などといった形態の違う「水の七変化」をすべて体感できるエリアでもある。

この「水」の恵み、により当エリア内には自然景観、野生生物、食など様々な観光資源が育まれているが、その中でも他地域にはない「宝」といえる観光資源であるタンチョウ、マリモ、摩周湖が、釧路地区、阿寒地区、川湯・摩周地区それぞれに存在する。

これら３地区はいずれも 5,000 人前後の宿泊収容力している一方、北海道という地域特性上、それぞれ１時間程度の距離を有しており、決して移動が容易な状況ではない。しかし見方を変えれば、それぞれの「宝」に近接した滞在促進地区が滞在促進プログラム等の企画を始め主体的な取組みを展開していくことで、２泊３日以上滞在を促進することが可能となる地域でもある。

また、これまでの観光圏としての取組みにおいても、釧路地区においては（一社）釧路観光コンベンション協会が、阿寒地区においては（特非）阿寒観光協会まちづくり推進機構が、川湯・摩周地区においては（一社）摩周観光協会および（株）ツーリズムてしかがが、それぞれの地区での取組みの中心組織として機能しつつ、それらが連携することで観光圏全体の取組みを着実に推進してきた蓄積がある。

これらのことから、当観光圏では３つの主な滞在促進地区を設定したうえで、取組みを展開していく。

## ② 主たる滞在促進地区の区域

名称	釧路滞在促進地区
範囲	釧路市（釧路地区）
<p>【設定の考え方】</p> <p>ラムサール条約湿地である釧路湿原を有する本地区は、たんちょう釧路空港、JR 釧路駅が存在し、当観光圏の玄関口とも言える。また、本地区を拠点とし、釧路川カヌー体験や釧路湿原ナイトバスツアー、ガイドと歩くまちなか観光（石川啄木ゆかりの地巡りや歴史・文学散策、世界三大夕日の一つと言われる釧路の夕日早朝魚河岸とまちめぐり等）といった滞在プログラムも展開されている。このように、釧路観光コンベンション協会を中心とした、滞在促進プログラムの企画・推進体制が構築されていることから、この地区を「主たる滞在促進地区」に設定する。</p> <p>＜宿泊施設の集積度＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・旅館、ホテル、民宿等の合計 33 施設、宿泊収容力：約 4,700 人</li> </ul> <p>＜アクセスの利便性＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・釧路空港：羽田空港より約 1 時間 30 分、釧路空港から釧路中心地まで車で約 40 分</li> <li>・JR 釧路駅：札幌駅より特急で約 3 時間 50 分</li> <li>・北海道横断自動車道根室線・阿寒 IC が平成 27 年度に開通予定、釧路 IC(仮)まで延伸予定。</li> </ul>	

名称	阿寒滞在促進地区
範囲	釧路市（阿寒地区）
<p>【設定の考え方】</p> <p>ラムサール条約湿地であり、また特別天然記念物に指定されているマリモが生息する阿寒湖を有する本地区は、北海道を代表する温泉リゾートである阿寒湖温泉を起点として、森や湖をフィールドとした様々な体験メニューやトレッキングの起点となっている（『光の森』ウォーキング、阿寒の森・湖上ウォーク、マリモ物語クルーズ&amp;ウォーク等）。このように、阿寒観光協会まちづくり推進機構を中心として、滞在促進プログラムの企画・運営され、更にはまちづくり活動も含めた推進体制が構築されていることから、この地区を「主たる滞在促進地区」に設定する。</p> <p>＜宿泊施設の集積度＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・旅館、ホテル、民宿等の合計 21 施設、宿泊収容力：約 5,300 人</li> </ul> <p>＜アクセスの利便性＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・釧路空港：阿寒本町まで車で約 15 分、阿寒湖温泉までは 50 分</li> <li>・JR 釧路駅：阿寒本町まで車で約 55 分、阿寒湖温泉までは 90 分</li> <li>・北海道横断自動車道根室線・阿寒 IC が平成 27 年度に開通予定</li> </ul>	

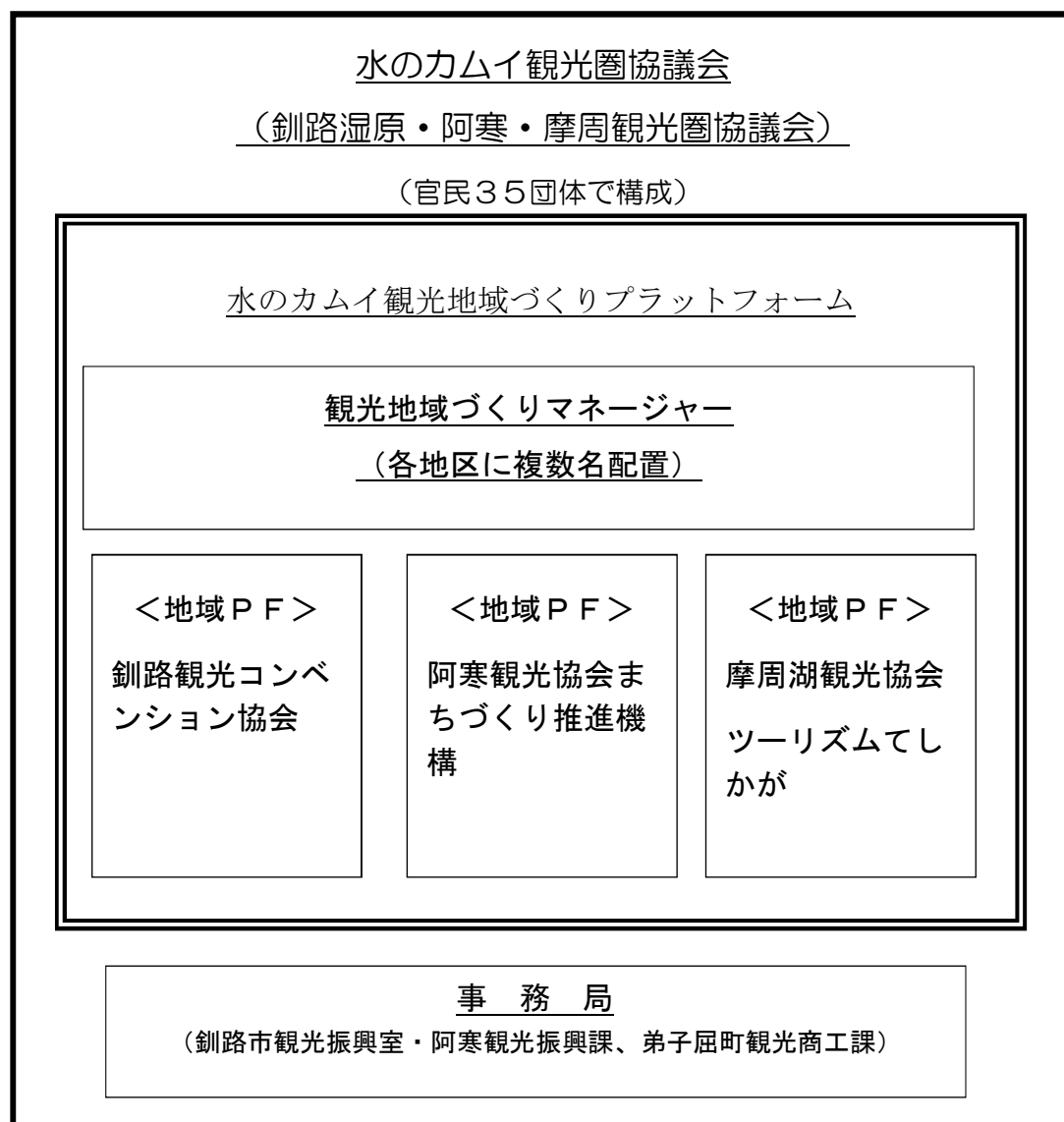


名称	川湯・摩周滞在促進地区
範囲	弟子屈町
<p>【設定の考え方】</p> <p>世界最大級の屈斜路カルデラに囲まれた本地区は、霧と透明度で有名な摩周湖をはじめ、壮大な雲海を生む屈斜路湖、川湯の硫黄山など、湖と火山に代表される自然資源を有している。また、強酸性泉の源泉かけ流し温泉として著名な川湯温泉を有し、宿泊施設も集積し、本地区を拠点として各種滞在プログラム（摩周湖星紀行、藻琴山雲海ガイドツアー等）も展開されている。このように、観光推進組織である摩周観光協会および滞在促進プログラムの企画・販売を行うツーリズムでしかがを中心とした観光推進体制が構築されていることから、当地区を「主たる滞在促進地区」に設定する。</p> <p>&lt;宿泊施設の集積度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・旅館、ホテル、民宿等の合計 47 施設、宿泊収容力：約 4,700 人</li> </ul> <p>&lt;アクセスの利便性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・釧路空港：川湯まで車で約 90 分、摩周まで車で約 120 分</li> <li>・女満別空港：川湯まで車で約 60 分、摩周まで車で約 85 分</li> <li>・J R 釧路駅：J R 摩周駅まで約 75 分、川湯駅まで約 90 分（川湯まで車で約 90 分、摩周まで約 90 分</li> </ul>	

### (3) 観光圏整備事業の実施体制

#### ① 実施体制の全体像

観光圏整備事業は、一般社団法人釧路観光コンベンション協会、特定非営利活動法人阿寒観光協会まちづくり推進機構、一般社団法人摩周湖観光協会、株式会社ツーリズムてしかがで構成される、観光地域づくりプラットフォームが中心となり、観光圏協議会や行政と連携して進めていく。



## ② 主たる滞在促進地区における事業実施体制

釧路滞在促進地区	<p>1) 地方公共団体の実施体制及び役割分担</p> <p>①担当部署名 釧路市産業振興部観光振興室</p> <p>②連携する部署名及び役割 釧路市道路河川課（社会資本整備）、環境保全課（環境保全・国立公園）、都市計画課（都市整備・まちづくり）、商業労政課（商業振興）、産業推進室（地域ブランド化）、農林課（農業振興）、市民協働推進課（長期滞在・国際交流）、港湾空港振興課（空港利用促進・クルーズ客船誘致）、阿寒観光振興課（観光まちづくり・マリモ展示観察センター・アイヌシアター）、阿寒地域振興課（観光振興）、阿寒市民課（国立公園）、釧路市教委（動物園・丹頂鶴自然公園・阿寒国際ツルセンター・博物館）</p> <p>2) 民間の実施体制及び役割分担</p> <p>①担当事業者名 一般社団法人釧路観光コンベンション協会</p> <p>②連携する事業者名及び役割 釧路空港ビル(株) （滞在プログラム企画）</p>
----------	---

阿寒滞在促進地区	<p>1) 地方公共団体の実施体制及び役割分担</p> <p>①担当部署名 釧路市産業振興部阿寒観光振興課</p> <p>②連携する部署名及び役割 釧路市道路河川課（社会資本整備）、環境保全課（環境保全・国立公園）、都市計画課（都市整備・まちづくり）、観光振興室（観光振興・湿原展望台・フィッシャーマンズワーフMOO）、商業労政課（商業振興）、産業推進室（地域ブランド化）、農林課（農業振興）、市民協働推進課（長期滞在・国際交流）、港湾空港振興課（空港利用促進・クルーズ客船誘致）、阿寒地域振興課（観光振興）、阿寒市民課（国立公園）、釧路市教委（動物園・丹頂鶴自然公園・阿寒国際ツルセンター・博物館）</p> <p>2) 民間の実施体制及び役割分担</p> <p>①担当事業者名 特定非営利活動法人阿寒観光協会まちづくり推進機構</p> <p>②連携する事業者名及び役割 (一財)自然公園財団阿寒湖支部 （滞在プログラム企画） 阿寒湖温泉旅館組合 （宿泊サービス改善） (株)阿寒町観光振興公社 （特産品開発、滞在プログラム企画） 阿寒町商工会 （特産品開発）</p>
----------	--

川湯・摩周滞在促進地区	1) 地方公共団体の実施体制及び役割分担
	①担当部署名 弟子屈町観光商工課 ②連携する部署名及び役割 弟子屈町建設課（社会資本整備）、環境生活課（環境保全・公共交通）、 農林課（農業振興）、まちづくり政策課（地域づくり・国際交流）、 弟子屈町教委（アイヌ民俗資料館）
	2) 民間の実施体制及び役割分担
	①担当事業者名 （一社）摩周湖観光協会 （株）ツーリズムてしかが ②連携する事業者名及び役割 （一財）自然公園財団川湯支部 （滞在プログラム企画） てしかがえこまち推進協議会 （人材育成） 弟子屈町商工会 （特産品開発）

#### （４） 観光圏整備計画の目標

##### ① 目標値

観光圏整備計画の着実な推進により達成する目標は以下の通りとする。

##### <主たる滞在促進地区合計一年間>

	単位	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
●来訪者満足度 [大変満足]	%	18.2 (20)	18.2 (20)	18.7 (21)	18.7 (21)	19.2 (22)
●旅行消費額	千円/ 人	23 (25)	23 (25)	24 (26)	24 (26)	25 (27)
●のべ宿泊数	千人泊	1,490.0 (96)	1,490.0 (97)	1,505.0 (98)	1,505.0 (99)	1,520.0 (100)
●リピーター率	%	58.7 (20)	58.7 (20)	60.0 (21)	60.0 (21)	61.0 (22)

※（ ）内は外国人

## ② 観光地域づくりマネージャーの育成等を通じた継続的、自律的な活動体制の確立等の目標

3つの滞在促進地区の取り組み状況等に関する情報共有、および各滞在促進地区を繋ぐ滞在プログラムの充実を図るとともに、観光地域づくりプラットフォームを中心とする連携を維持・強化していくために、観光地域づくりマネージャー、観光地域づくりプラットフォーム、行政が参加する会合を月1回以上開催する。

また、観光地域づくりに関する意識醸成や知見を得ることを目的に、当観光圏内でのセミナー開催や、東京等で開催される関連セミナーへの参加をそれぞれ年1回以上実施する。

### (5) 計画期間等

本計画の期間は、平成27年4月から平成32年3月までの5年間とする。

社会情勢の変化や、継続的に実施するマーケティング調査の結果、本計画を見直す必要が生じた際には、観光圏協議会（釧路湿原・阿寒・摩周観光圏協議会）での協議を行う。

### (6) 住民その他利害関係者の意見を反映させるための措置及び反映内容

当観光圏の観光関連団体の関係者で構成される、釧路湿原・阿寒・摩周観光圏協議会において議論を重ね、挙げられた意見等を本計画に反映した。

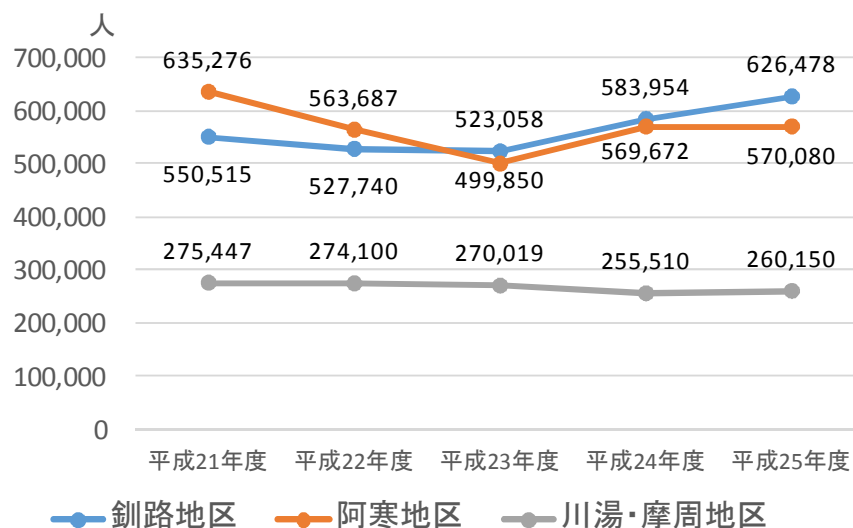
## 2. 観光圏の整備による観光旅客の来訪及び滞在の促進に関する

### 基本的な方針

#### (1) 観光旅客の来訪と滞在の現状

当圏域は、以前は通過・周遊型の北海道ツアーの宿泊客が多かったが、団体旅行から個人旅行へのシフトとともに徐々に観光入り込み客数が減少してきた。しかし近年の当圏域の主な滞在促進地区の延べ宿泊者数の推移をみると、平成23年度(2011年年度)までは横ばいあるいは減少傾向であったが、平成24年度、25年度とやや回復傾向を見せており、当圏域が観光圏として滞在型観光の促進に取り組んできた成果も徐々に見られてきている。

図表 2-1 近年の延べ宿泊者数の推移



出典：釧路市、弟子屈町統計

## (2) 当観光圏の強み・弱み

当観光圏の強み・弱みについて関係者で議論した結果では、強みについては当圏域が有する自然を中心とする「希少で、豊かな特徴ある自然が存在」する点や、「気候・風土に特徴がある点」が多く挙げられた。またアイヌ文化やツルの人工ふ化、フィッシングの聖地（阿寒湖）といった「自然との共生の歴史文化の存在」にも特徴があることも挙げられた。

図表 2-2 当観光圏の強み

希少で、豊かな特徴ある自然が存在	自然との共生の歴史文化の存在
ここでしか見られない「アジアの宝」(タンチョウ、マリモ、摩周湖)の存在	アイヌ文化(阿寒)
国立公園が2つ	ツル→人工ふ化など歴史がある
特別天然記念物2つ(タンチョウ、マリモ)	フィッシングの聖地
天然記念物2つ(春採湖のヒブナ生息地、和琴ミンミンゼミ発生地)	世界的資源を非常に近くで見える、体験できる
守られてきた自然	豊かな食の存在
ラムサール湿原の存在(2,000の種が存在)	カキが年中食べられる(北海道全体の食のイメージから)
摩周湖の透明度(世界2位)／屈斜路カルデラ(日本一)	食の安心・安全
国立公園を2つまたぐ川(釧路川)の存在	海産物(サンマ、イカ、…シシャモ)
ダイヤモンドダスト(川湯)	摩周そば、摩周メロン
空(霧、雲海)の活用→スーパーおぞら	冬に起因する強み
世界3大夕日	ツルツルの道路を走りたい人もいる。走れるような体験も必要
水と火山なしでは語れない地域	冬に財産がある(本州に比べて)
気候・風土に特徴がある	冬のSL運行・釧路だけ、ノロコ号の存在
空気がきれい	その他
四季がはっきりしており北欧に近い。(特にインバウンド目線)	体験メニューが豊富
冷涼な気候(夏)→合宿誘致の可能性	知床も近い
東洋のイギリス、といったイメージでの売り出しも検討中(雇用創生事業)	ゴルフ場が多い、安い
人が少ない、静か(大阪などと比べて)	総合病院が多い(釧路)
	旅行者が求めるもの(健康、美容、知的好奇心を満たす)の存在

出典：平成26年度 観光圏計画策定ワークショップ結果より

一方、当観光圏の弱みについては、「知名度が低い」「差別化、ブランド化ができていない」といった、他地域と比較した中での当圏域の価値、売りは何か、といった点を改めて考えていく必要性が挙げられた。また、圏域が広いことにも起因する「二次交通の弱さ」や、受入体制としての「案内所の機能の弱さ」「サイン整備の弱さ」も挙げられている。近年は、我が国全体の傾向と同様当圏域においても外国人観光客は増加傾向にあるが、「国際対応の弱さ」も挙げられている。

図表 2-3 当観光圏の弱み

二次交通が弱い	国立公園エリアであることの制約
行きたいところいつでも行ける手段があるようにする必要がある。 インバウンド向けにも重要。	国立公園なので制約もある(近づけない、商品づくりづらい)
周遊しにくいのでバスなどあれば良い→路線バスによる周遊拡大	摩周湖の透明度が伝わらない(映像や見る場所があれば良いのだが)
二次交通で具体的にどういう経路が必要なのか。検討が必要。	AIRが少ない
案内所の機能が弱い	エリアの広さに起因する課題
サイン整備が弱い	沿道がさびしい
国際対応が弱い	時間とお金が他地域よりも必要
多言語化、弱い	ケータイ・wifiが使えない場所もある
国際化対応できる人材不足	冬(雪)に起因する課題
AIRは多言語進んでいるので、着いた後もういかに対応できるかが課題	冬は通行止めが多発
知名度が低い	冬はツルツルの道路で運転しづらく、とっつきづらい
知っているようで知られていない	冬をどう売るかが課題
摩周湖、若い人に知られていない	全天候型の施設がない(改修なども検討)
差別化、ブランド化できていない	その他
道東の差別化	施設新設・改修する費用がない
広域で発信する名前(ブランド)がない	人の教育が必要(奥ゆかしい)
	管内8つをどう連携していくのか

出典：平成 26 年度 観光圏計画策定ワークショップ結果より

図表 2-4 当観光圏の機会・脅威

機会	
インバウンドの伸び	2020年オリンピック・パラリンピックの開催
バードウォッチングの裾野の広がり(欧米系) →当観光圏はその宝庫。いかに情報発信するかが課題	外国人の方の就労→技術発信
アイヌ文化(阿寒だけでなく釧路、弟子屈にもあり)	ラグジュアリー層の、自然・健康に対するニーズ
釧路の技術(炭坑)の輸出	
脅威	
貸し切りバスの値上がり(正規運賃に戻ってきている)や、バス不足に伴う、団体ツアーの減少	新千歳空港への一極集中
航空運賃の高さ	夏の霧、冬の吹雪、交通機関のマヒ
北海道新幹線開業	

出典：平成 26 年度 観光圏計画策定ワークショップ結果より



### (3) 当観光圏における観光地域づくりの基本方針

#### ① 観光地域づくりの基本的な考え方

「(2) 当観光圏の強み・弱み」で整理したとおり、当観光圏にしかないもの・こと（他地域と明確に区別できるもの・こと）としては、「自然環境」であり、また単に自然が「ある」だけでなく、自然を守り、育て、享受しながら生活してきた歴史にも特徴があるといえる。更にこれらに付随して食の魅力や冬の魅力が存在している。こうした点を踏まえ、当観光圏の観光地域づくりの基本的な考え方（運営理念）を以下のように整理する。

#### ■「当観光圏にしかないもの・こと（他地域と明確に区別できるもの・こと）」

◎「自然環境」が最も特徴的

- ・2つ国立公園の存在   ・タンチョウ、マリモ、摩周湖（＝“アジアの宝”）の存在
- ・釧路湿原（ラムサール条約湿地）の存在   ・夏の冷涼な気候
- ・海霧・雲海の発生

◎単に自然が「ある」だけでなく、自然を守り育て享受しながら生活してきた歴史にも特徴

- ・アイヌ文化   ・タンチョウの人工ふ化   ・マリモ研究
- ・湿原の保全活動

※これらに付随して、豊かな食の存在や特徴ある冬の魅力

#### ■観光地域づくりの基本的な考え方（理念）

常に身近に希少な自然環境と恵みを感じながら、守り育て享受してきた営みをベースとし、自然と共生する持続可能な地域社会の形成をめざし「住んでよし、訪れてよし」の地域づくりを進化させていく

## ② コンセプト

### 「水のカムイと出会える旅へ」

Explore the spirit of KAMUY, Deity of water

～釧路湿原・阿寒・摩周～

当エリアは3つのカルデラ湖（阿寒湖、摩周湖、屈斜路湖）を有し、更に阿寒湖から流れる阿寒川、屈斜路湖から流れる釧路川は、このエリアの産業・生活の根幹を支えている。この2つの川はいずれも釧路市街を通り太平洋に注いでいる。また、当エリアで発生する大規模な霧は、寒流が流れ込む釧路沖の海に南からの暖かい空気が流れ込むことによるものでもあるが、この霧は釧路沖から内陸に押し寄せ、80km離れた屈斜路カルデラに流れ込み、逃げ場を無くして留まることにより雲海となる。すなわち、海から発生した霧が阿寒カルデラと屈斜路カルデラの森を潤し、再び水となって海に向かって流れていくという大きな水の循環が起こっている。こうしたことから、当エリアは「水」によって結ばれ、一体性を有するエリアと言える。さらに、当エリアは冬になると、3つのカルデラ湖の結氷、霧氷（樹氷、粗氷、樹霜）、フロストフラワー、ダイヤモンドダストといった様々な「氷」の姿も見るができる。いわば、雨、霧、雪、氷、更には温泉などといった形態の違う「水の七変化」をすべて体感できるエリアでもある。

また、2つの国立公園（釧路湿原国立公園、阿寒国立公園）を有するエリアは国内で他にはなく、身近に野生の動物（タンチョウ、鷲、白鳥、エゾシカなど）と遭遇することが出来る、雄大で多様な自然を有するエリアである。

釧路湿原は、日本一のカルデラ湖である屈斜路湖を源とする釧路川が太平洋に注ぐ過程で作られた大湿原であり、マリモ同様に国の特別天然記念物に指定されている「タンチョウ（サルルンカムイ（＝アイヌ語で湿原の神の意））」が生息する。タンチョウは明治末～大正時代には絶滅寸前の状況となっていたが、人工給餌や人工繁殖など地元の人々の手厚い



「水のカムイ」が創った神秘的  
摩周ブルーと雲海



「水のカムイ」が創った奇跡の  
マリモグリーン



「水のカムイ」が創った優雅な  
ピュアホワイト

保護により、個体数は着実に回復し現在に至っている。

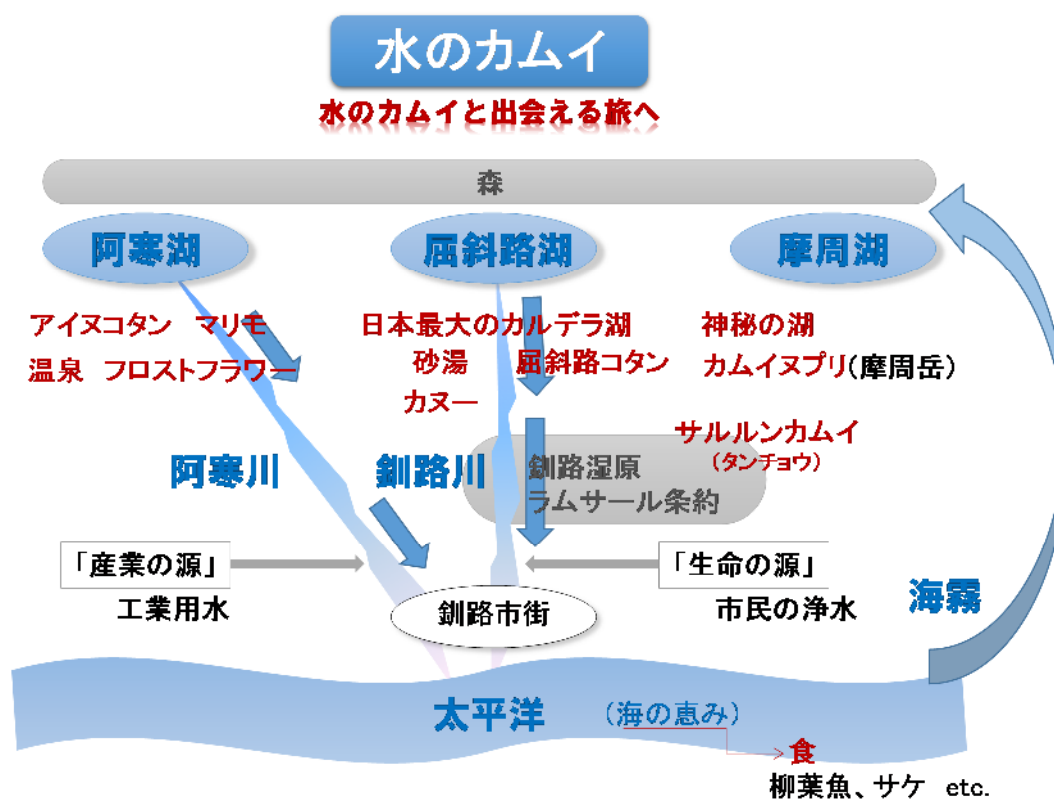
阿寒湖には、国の特別天然記念物にも指定されている「マリモ」が存在している。他国では丸いマリモの生息地が消滅していく中、阿寒湖においては、住民によるマリモ返還運動や保護活動、周辺森林などの環境保全活動、マリモの研究などが積み重ねられており、その結果、世界で唯一の大型球状マリモ生息地となっている。阿寒湖のマリモの希少性・貴重性の高さは、世界自然遺産登録を目指す活動が現在展開されていることから伺える。また、阿寒湖温泉には北海道で最も大きいアイヌコタン（アイヌ民族の集落）も存在する。マリモはアイヌ民族の間では「トーラサンペ（湖のみたま）」とも呼ばれ、アイヌ文化とマリモとのつながりもある。

摩周湖はカムイヌプリ（摩周岳）の噴火によって今の姿となった湖であり、世界トップクラスの透明度を誇る湖である。その透明度は非常に高く、ロシアのバイカル湖が持っていた 40m を超える 41m を記録しギネスブックに掲載されたこともある。また、摩周湖は他の 2 湖と異なり流入・流出河川のない湖であることから、水の汚れで大気の汚れを知る、世界でも希少な環境モニタリング登録地となっている。

このように、当エリアは森→湖→川→海→海霧→森といった「水の循環」で結ばれた一体感を有するエリアであるとともに、雨、霧、雪、氷、温泉といった「水の七変化」をすべて体感できるという、他の地域にはない特長を有するエリアである。また、当エリアが誇る「タンチョウ」「マリモ」「摩周湖」といった観光資源は、この「水」の恵み、そして先住民族であるアイヌ文化の思想でもある「自然との共生」によってもたらされたものということが出来る。これは、あらゆる事物に「神」が宿ると考えるアイヌ文化の思想で言い換えれば、「水の神（＝カムイ）」によってもたらされたものと捉えることが出来ると思われる。

そこで、この「水のカムイ」によってもたらされた雄大で多様な自然、そしてその自然と共生してきた歴史文化を、来訪者の方々にもより深く触れ、五感で体感していただくことをコンセプトとして設定し、取り組みを進めていくこととする。

図表 2-5 当観光圏の「水」による繋がりと、「水のカムイ」によりもたらされた様々な恵み



図表 2-6 [当エリアの「水の循環」、「水の七変化」]



### 3. 観光圏整備事業の概要

#### (1) 主たる滞在促進地区を起点とする滞在プログラム企画促進、魅力向上等事業

##### ア.「水のカムイ」体感！滞在プログラムの開発

事業概要	実施主体	実施時期
ブランドコンセプト「水のカムイと出会える旅へ」～釧路湿原・阿寒・摩周～を体感できる滞在プログラムの研究開発等の取組みを進めていく。	釧路市、弟子屈町、(一社)釧路観光コンベンション協会、(一財)自然公園財団阿寒湖支部、(一財)自然公園財団川湯支部、(特非)阿寒観光協会まちづくり推進機構、てしかがえこまち推進協議会、(一社)摩周湖観光協会、阿寒湖温泉旅館組合、(株)阿寒町観光振興公社、(株)ツーリズムてしかが、阿寒町商工会、弟子屈町商工会、阿寒バス(株)、釧路空港ビル(株)	H27 年度 ～ H31 年度

##### イ.「水のカムイ」体感！公共交通網の整備等

事業概要	実施主体	実施時期
個人で訪れる外国人旅行者など、レンタカー以外で回遊・滞在する旅行者がブランドコンセプト「水のカムイと出会える旅へ」～釧路湿原・阿寒・摩周～を体感できる滞在プログラムをお楽しみいただくために必要となる公共交通網の整備や、持続可能な公共交通網の充実強化に向け、観光圏ネットワークバス「阿寒・摩周号」の冬季運行需要調査実証実験等の取組みを進めていく。	釧路市、弟子屈町、(一社)釧路観光コンベンション協会、(一財)自然公園財団阿寒湖支部、(一財)自然公園財団川湯支部、(特非)阿寒観光協会まちづくり推進機構、てしかがえこまち推進協議会、(一社)摩周湖観光協会、阿寒湖温泉旅館組合、(株)阿寒町観光振興公社、(株)ツーリズムてしかが、阿寒町商工会、弟子屈町商工会、阿寒バス(株)、釧路空港ビル(株)	H27 年度 ～ H31 年度

## (2) 主たる滞在促進地区における事業

### ① マーケティング調査

#### ア. 来訪者調査

事業概要	実施主体	実施時期
国内外からの来訪者の圏域内での観光の実態、満足度とニーズ把握、長期滞在に向けた課題抽出等を、来訪者に聞き取り(対面式)調査を行い、分析する。	釧路市、弟子屈町、(一社)釧路観光コンベンション協会、(一財)自然公園財団阿寒湖支部、(一財)自然公園財団川湯支部、(特非)阿寒観光協会まちづくり推進機構、てしかがえこまち推進協議会、(一社)摩周湖観光協会、阿寒湖温泉旅館組合、(株)阿寒町観光振興公社、(株)ツーリズムてしかが、阿寒町商工会、弟子屈町商工会、阿寒バス(株)、釧路空港ビル(株)	H27 年度 ～ H31 年度

### ② 宿泊サービスの改善・向上、魅力向上

#### ア. 連泊・滞在化の促進

事業概要	実施主体	実施時期
圏域の連泊や滞在化の促進に向け、ブランドコンセプト「水のカムイと出会える旅へ」～釧路湿原・阿寒・摩周～を体感できる滞在プログラムの研究開発等の成果を活かし、これらを組み合わせたプログラムの企画開発等をめざした調査研究等の取り組み等を進めていく。	釧路市、弟子屈町、(一社)釧路観光コンベンション協会、(一財)自然公園財団阿寒湖支部、(一財)自然公園財団川湯支部、(特非)阿寒観光協会まちづくり推進機構、てしかがえこまち推進協議会、(一社)摩周湖観光協会、阿寒湖温泉旅館組合、(株)阿寒町観光振興公社、(株)ツーリズムてしかが、阿寒町商工会、弟子屈町商工会、阿寒バス(株)、釧路空港ビル(株)	H27 年度 ～ H31 年度

#### イ. 食物アレルギーや世界からのお客様など多様な旅行者へのおもてなし向上

事業概要	実施主体	実施時期
食物アレルギーや世界からのお客様など、多様化する国内外からの旅行者へのおもてなし向上を図るため、平成26年に策定した「食物アレルギーや世界からのお客様など多様な旅行者へのおもてなし向上基本マニュアル」の普及啓発の取り組み等を進めていく。	釧路市、弟子屈町、(一社)釧路観光コンベンション協会、(一財)自然公園財団阿寒湖支部、(一財)自然公園財団川湯支部、(特非)阿寒観光協会まちづくり推進機構、てしかがえこまち推進協議会、(一社)摩周湖観光協会、阿寒湖温泉旅館組合、(株)阿寒町観光振興公社、(株)ツーリズムてしかが、阿寒町商工会、弟子屈町商工会、阿寒バス(株)、釧路空港ビル(株)	H27 年度 ～ H31 年度

#### ウ. 国際化対応等整備事業

事業概要	実施主体	実施時期
外国人旅行者等へのおもてなし向上を図るため、決済システム等の実態調査を実施し、その結果を踏まえて整備促進方策の検討等の取組みを進めていく。	釧路市、弟子屈町、(一社) 釧路観光コンベンション協会、(一財) 自然公園財団阿寒湖支部、(一財) 自然公園財団川湯支部、(特非) 阿寒観光協会まちづくり推進機構、てしかがえこまち推進協議会、(一社) 摩周湖観光協会、阿寒湖温泉旅館組合、(株) 阿寒町観光振興公社、(株) ツーリズムてしかが、阿寒町商工会、弟子屈町商工会、阿寒バス(株)、釧路空港ビル(株)	H27 年度 ～ H31 年度

#### エ. ブランドコンセプトを体感する食の研究開発

事業概要	実施主体	実施時期
ブランドコンセプトを体感する食の研究開発として、メニューや認証など多岐にわたる食の取組みの中から、当圏に相応しい食の取組みの調査研究等の取組みを進めていく。	釧路市、弟子屈町、(一社) 釧路観光コンベンション協会、(一財) 自然公園財団阿寒湖支部、(一財) 自然公園財団川湯支部、(特非) 阿寒観光協会まちづくり推進機構、てしかがえこまち推進協議会、(一社) 摩周湖観光協会、阿寒湖温泉旅館組合、(株) 阿寒町観光振興公社、(株) ツーリズムてしかが、阿寒町商工会、弟子屈町商工会、阿寒バス(株)、釧路空港ビル(株)	H27 年度 ～ H31 年度

### ③ 滞在コンテンツの魅力向上

#### ア. 観光施設・イベント等のおもてなし向上事業

事業概要	実施主体	実施時期
圏域内の観光施設やイベント等の国際化対応など、おもてなし向上について、実態調査を行い、方策の検討等の取組みを進めていく。	釧路市、弟子屈町、(一社) 釧路観光コンベンション協会、(一財) 自然公園財団阿寒湖支部、(一財) 自然公園財団川湯支部、(特非) 阿寒観光協会まちづくり推進機構、てしかがえこまち推進協議会、(一社) 摩周湖観光協会、阿寒湖温泉旅館組合、(株) 阿寒町観光振興公社、(株) ツーリズムてしかが、阿寒町商工会、弟子屈町商工会、阿寒バス(株)、釧路空港ビル(株)	H27 年度 ～ H31 年度

#### イ. ショッピングの魅力向上事業

事業概要	実施主体	実施時期
国内外から訪れるお客様の圏域内でのショッピングの魅力向上に向けた取り組みを協議検討等の取組みを進めていく。	釧路市、弟子屈町、(一社) 釧路観光コンベンション協会、(一財) 自然公園財団阿寒湖支部、(一財) 自然公園財団川湯支部、(特非) 阿寒観光協会まちづくり推進機構、てしかがえこまち推進協議会、(一社) 摩周湖観光協会、阿寒湖温泉旅館組合、(株) 阿寒町観光振興公社、(株) ツーリズムてしかが、阿寒町商工会、弟子屈町商工会、阿寒バス(株)、釧路空港ビル(株)	H27 年度 ～ H31 年度

	くり推進機構、てしかがえこまち推進協議会、(一社)摩周湖観光協会、阿寒湖温泉旅館組合、(株)阿寒町観光振興公社、(株)ツーリズムてしかが、阿寒町商工会、弟子屈町商工会、阿寒バス(株)、釧路空港ビル(株)	
--	---	--

#### ④ 移動の利便性の向上（アクセス向上）

##### ア. バス、レンタカー・観光タクシー等交通の利便性等向上事業

事業概要	実施主体	実施時期
圏域内の交通の利便性や、交通拠点と滞在拠点間などの荷物等の搬送サービスを含むおもてなしの向上、国際化対応等を目的とした調査研究等の取組みを進めていく。	釧路市、弟子屈町、(一社)釧路観光コンベンション協会、(一財)自然公園財団阿寒湖支部、(一財)自然公園財団川湯支部、(特非)阿寒観光協会まちづくり推進機構、てしかがえこまち推進協議会、(一社)摩周湖観光協会、阿寒湖温泉旅館組合、(株)阿寒町観光振興公社、(株)ツーリズムてしかが、阿寒町商工会、弟子屈町商工会、阿寒バス(株)、釧路空港ビル(株)	H27 年度 ～ H31 年度

#### ⑤ 情報提供の充実

##### ア. 情報発信の強化

事業概要	実施主体	実施時期
当観光圏の一元的窓口機能を発揮している観光圏ポータルサイトや観光圏アプリを、さらに国内外の利用者の使い勝手等の向上を図り、必要な情報を必要とされるだけ提供できるように計画的な改良を進めていく。	釧路市、弟子屈町、(一社)釧路観光コンベンション協会、(一財)自然公園財団阿寒湖支部、(一財)自然公園財団川湯支部、(特非)阿寒観光協会まちづくり推進機構、てしかがえこまち推進協議会、(一社)摩周湖観光協会、阿寒湖温泉旅館組合、(株)阿寒町観光振興公社、(株)ツーリズムてしかが、阿寒町商工会、弟子屈町商工会、阿寒バス(株)、釧路空港ビル(株)	H27 年度 ～ H31 年度



## イ. 情報インフラの整備

事業概要	実施主体	実施時期
当観光圏ポータルサイトや観光圏アプリの利用環境整備として、無料W i - F i などの情報インフラ整備や、Q R コード等を活用した多言語ガイドシステムの整備、フリーS I M等の提供ニーズの調査研究などの訪日外国人旅行者の受入環境整備に向けた取り組みを計画的に進めていく。	釧路市、弟子屈町、(一社) 釧路観光コンベンション協会、(一財) 自然公園財団阿寒湖支部、(一財) 自然公園財団川湯支部、(特非) 阿寒観光協会まちづくり推進機構、てしかがえこまち推進協議会、(一社) 摩周湖観光協会、阿寒湖温泉旅館組合、(株) 阿寒町観光振興公社、(株) ツーリズムてしかが、阿寒町商工会、弟子屈町商工会、阿寒バス(株)、釧路空港ビル(株)	H27 年度 ～ H31 年度

## (3) 住民に対する意識啓発等事業

### ア. 観光地域づくりセミナーの開催

事業概要	実施主体	実施時期
地域の観光関係者やガイド、観光案内所スタッフ、住民などを対象、ニーズを勘案したテーマを設定した研修等による人材育成や地域づくりのセミナー等を年2～3回程度実施する。	釧路市、弟子屈町、(一社) 釧路観光コンベンション協会、(一財) 自然公園財団阿寒湖支部、(一財) 自然公園財団川湯支部、(特非) 阿寒観光協会まちづくり推進機構、てしかがえこまち推進協議会、(一社) 摩周湖観光協会、阿寒湖温泉旅館組合、(株) 阿寒町観光振興公社、(株) ツーリズムてしかが、阿寒町商工会、弟子屈町商工会、阿寒バス(株)、釧路空港ビル(株)	H27 年度 ～ H31 年度

## (4) その他事業（プロモーション等）

### ア. 「水のカムイ」ブランド戦略策定等事業

事業概要	実施主体	実施時期
ブランドコンセプト「水のカムイと出会える旅へ」～釧路湿原・阿寒・摩周～を来訪者が体感できる滞在プログラムの研究開発や、マーケティング調査、宿泊サービスの改善・向上、魅力向上、滞在コンテンツの魅力向上等、ブランド戦略を策定する。さらに、コアメンバー等のスキルアップや住民に対する意識啓発等を図ることを目的としたセミナー等を開催する。	釧路市、弟子屈町、(一社) 釧路観光コンベンション協会、(一財) 自然公園財団阿寒湖支部、(一財) 自然公園財団川湯支部、(特非) 阿寒観光協会まちづくり推進機構、てしかがえこまち推進協議会、(一社) 摩周湖観光協会、阿寒湖温泉旅館組合、(株) 阿寒町観光振興公社、(株) ツーリズムてしかが、阿寒町商工会、弟子屈町商工会、阿寒バス(株)、釧路空港ビル(株)	H27 年度

## 4. 協議会に関する資料等

### (1) 協議会委員

No.	役職名	団体名等	委員職氏名	
1	会 長	釧路市	市長	蝦名 大也
2	副会長	弟子屈町	町長	徳永 哲雄
3	補助事業 代表者	(一社) 釧路観光コンベンション協会	会長	中山 勝範
4	委 員	(一財) 自然公園財団阿寒湖支部	所長	山口 武司
5	委 員	(一財) 自然公園財団川湯支部	所長	山口 武司
6	委 員	(一財) 前田一步園財団	理事長	前田 三郎
7	委 員	(特非) 阿寒観光協会まちづくり推進機構	理事長	大西 雅之
8	委 員	てしかがえこまち推進協議会	会長	徳永 哲雄
9	委 員	(一社) 摩周湖観光協会	会長	木暮 敏男
10	委 員	阿寒湖温泉旅館組合	組合長	山浦 祥治
11	委 員	摩周温泉旅館組合	組合長代理	木暮 敏男
12	委 員	阿寒湖民宿組合	組合長	山口 博
13	委 員	摩周湖の郷ペンション民宿等ネットワーク	代表	村上 幸喜
14	委 員	(株) 阿寒町観光振興公社	代表取締役社長	金行 正義
15	委 員	(株) 弟子屈町振興公社	代表取締役	吉備津 民夫
16	委 員	阿寒観光汽船(株)	代表取締役	小林 一之
17	委 員	阿寒アイヌ工芸協同組合	代表理事	西田 正男
18	委 員	阿寒湖漁業協同組合	組合長理事	逢坂 健司
19	委 員	(有) 広大	代表	小野 宏之
20	委 員	阿寒ネイチャーセンター	代表取締役	安井 幸紀
21	委 員	(株) ツーリズムてしかが	代表取締役	山本 和之
22	委 員	釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウエイ ルート運営代表者会議	会長	桐木 茂雄
23	委 員	阿寒町商工会	会長	吉田 守人
24	委 員	弟子屈町商工会	会長	桐木 茂雄
25	委 員	摩周湖農業協同組合	組合長	川口 覚
26	委 員	阿寒ハイヤー(株)	代表取締役社長	松岡 豊幸
27	委 員	(有) 阿寒観光ハイヤー	代表取締役社長	松岡 篤寛
28	委 員	(有) 摩周ハイヤー	代表取締役	村岡 幸雄
29	委 員	全日本空輸(株) 釧路支店	支店長	井上 かおり
30	委 員	(株) 日本航空釧路支店	営業支店長	宮永 泰樹

No.	役職名	団体名等	委員職氏名	
31	委 員	北海道旅客鉄道(株)釧路支社	支社長	大江 秀夫
32	委 員	阿寒バス(株)	代表取締役	香川 眞廣
33	委 員	釧根地区ハイヤー協会	会長	近藤 伸也
34	委 員	釧根地区レンタカー協会	会長	坪井 浩
35	委 員	釧路空港ビル(株)	代表取締役社長	奥田 博康

オブザーバー

36	国土交通省北海道開発局釧路開発建設部	部長	数土 勉
37	国土交通省北海道運輸局釧路運輸支局	支局長	新保 信一
38	環境省釧路自然環境事務所	所長	西山 理行
39	林野庁根釧西部森林管理署	署長	佐藤 稔
40	北海道釧路総合振興局	局長	土栄 正人
41	釧路観光連盟	会長	佐藤 悦夫
42	ひがし北海道観光事業開発協議会	会長	上野 洋司

## (2) 釧路湿原・阿寒・摩周観光圏協議会規約

平成22年1月28日制定

### 第1章 総則

(名称)

第1条 この協議会は、釧路湿原・阿寒・摩周観光圏協議会（以下「協議会」という。）

(事務所)

第2条 協議会は、事務所を釧路市産業振興部阿寒観光振興課内に置く。

(目的)

第3条 協議会は、観光地相互間の連携によって観光圏を形成し、その観光の魅力の増進により国際競争力を高め、内外からの観光旅客の来訪及び滞在を促進することを目的とする。

(業務)

第4条 協議会は、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 観光圏整備計画の策定に関する業務
- (2) 観光圏整備実施計画に関する業務
- (3) 観光圏整備事業に関する業務
- (4) その他目的達成に必要な業務

### 第2章 構成員等

(協議会の構成員)

第5条 協議会の委員は、別表に掲げるものをもって組織する。

2 協議会は、オブザーバーを置くことができる。オブザーバーは協議会に対して助言指導を行う。

(届出)

第6条 委員は、その氏名及び住所（委員が団体の場合については、その名称、所在地及び代表者の氏名）に変更があったときは、遅滞なく協議会にその旨を届けなければならない。

(入会、退会)

第7条 協議会の入会及び退会は、協議会の承認を得るものとする。

### 第3章 運営等

#### (役員)

第8条 協議会の役員として、会長1名、副会長1名以上及び監事2名を置く。

- 2 会長及び副会長は委員である地方公共団体の長の中から選任する。
- 3 監事は、委員の互選により選任する。委員が団体である場合には、団体の代表者とする。
- 4 役員の任期は2年とし、再任を妨げない。但し、役員が任期の途中で欠けたときは、その後任者が役員を承継し、その役員の任期は前任者の残任期間とする。

#### (役員の職務)

第9条 会長は協議会を代表し、会務を総括する。

- 2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は欠けたときはその職務を代理する。
- 3 監事は、協議会の業務及び財務を監査する。

#### (事務局)

第10条 協議会の事務局は、釧路市産業振興部阿寒観光振興課に置く。

#### (幹事会)

第11条 協議会は、業務その他協議会の運営に当たって必要な事項を処理するため、幹事会を置く。

- 2 幹事会は、第5条に定める構成員の事務担当者等とともに、その他会長が必要と認めた者を委員とすることができる。
- 3 幹事会は、必要に応じて関係者を招集、意見を聴くことができる。
- 4 幹事会は、部会を設置することができる。

### 第4章 総会

#### (総会の種別)

第12条 協議会の総会は、通常総会及び臨時総会とする。

- 2 総会の召集は会長が行ない、会長が議長となる。
- 3 通常総会は、毎年1回以上開催する。
- 4 臨時総会は、会長が必要と認めたときに開催する。
- 5 総会は、次の事項を審議する。
  - (1) 規約の改廃に関する事項
  - (2) 業務計画に関する事項
  - (3) 予算及び決算に関する事項

(4) その他、協議会の運営に関する重要な事項

(総会の議決方法等)

第13条 総会は、委員現在数の過半数の出席がなければ開くことができない。

2 委員は、総会において、各1個の議決権を有する。

(協議結果の取扱い)

第14条 協議会において協議が調った事項については、協議会の構成員はその協議の結果を尊重しなければならない。

(議事録)

第15条 総会の議事については、議事録を作成しなければならない。

2 議事録は、少なくとも次の各号に掲げる事項を記載する。

(1) 日時及び場所

(2) 委員の現在数、当該総会に出席した委員数、当該総会に出席したと見なされた者の数及び当該総会に出席した委員の氏名

(3) 議案

(4) 議事の経過の概要及びその結果

(5) 議事録署名人の選任に関する事項

3 議事録は、第2条の事務所に備え付けておかなければならない。

## 第5章 会計

(会計年度)

第16条 協議会の会計年度は、毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

(資金)

第17条 協議会の資金は、次の各号に掲げるものとする。

(1) 国及び地方公共団体、構成員からの補助金、交付金、負担金等

(2) その他の収入

(資金の取扱い)

第18条 協議会の資金の取扱方法は、別に定める。

(事務経費支弁の方法等)

第19条 協議会の事務に要する経費は、第17条の資金をもって充てる。

## 第6章 代表者

(代表者)

第20条 総会の決定に基づき観光圏整備事業の業務を執行するために代表者を置く。

- 2 協議会の代表者は、次に掲げるものとし、観光圏整備事業の代表者とする。  
一般社団法人 釧路観光コンベンション協会

(監査等)

第21条 事務局は、毎事業年度終了後、観光圏整備事業の代表者に対し、当該補助事業に関する監査を実施しなければならない。

- 2 事務局は、監査終了後において、監査報告書を作成して会長に報告するとともに、会長はその監査報告書を総会に提出しなければならない。

## 第7章 雑則

(細則)

第24条 協議会の事務の運営上必要な細則は、会長が別に定める。

附 則

- 1 この規約は、平成22年1月28日から施行する。
- 2 この規約は、平成24年5月15日から施行する。
- 3 この規約は、平成25年5月30日から施行する。

### (3) 協議結果

開催日	会議名、概要等
平成 26 年 5 月 16 日	観光圏協議会第 1 回幹事会 (新観光圏認定に向けた事業計画案等を承認)
平成 26 年 5 月 26 日	観光圏協議会平成 26 年度総会 (新観光圏認定に向けた事業計画議決)
平成 26 年 6 月 9 日	観光圏協議会第 2 回幹事会 (新観光圏認定に関する情報等共有)
平成 26 年 10 月 15 日	観光圏計画策定第 1 回ワークショップ (当観光圏の SWOT 分析、目指す姿等議論)
平成 26 年 11 月 5 日	観光圏計画策定第 2 回ワークショップ (当観光圏のブランドコンセプト等議論)
平成 26 年 11 月 6 日	釧路湿原・阿寒・摩周観光圏 観光地域づくりワークショップ (今後の観光地域づくりの方向性等に関して議論・検討)
平成 26 年 12 月 4 日	観光圏計画策定第 3 回ワークショップ (観光圏の戦略、具体事業等議論)
平成 26 年 12 月 25 日	観光圏計画策定第 4 回ワークショップ (滞在プログラム等議論)
平成 26 年 12 月 25 日	観光圏協議会第 3 回幹事会 (当観光圏のブランドコンセプトおよび戦略、戦術等議論)
平成 27 年 1 月 15 日	観光圏計画策定第 5 回ワークショップ (滞在プログラム等議論)
平成 27 年 1 月 26 日	観光圏計画策定第 6 回ワークショップ (観光圏実施計画(素案)等議論)
平成 27 年 2 月 6 日	観光圏協議会第 4 回幹事会 (観光圏実施計画(素案)等議論)

※ワークショップの参集範囲： 観光圏協議会幹事会メンバー、観光圏協議会幹事会オブザーバーメンバー、観光地域づくりマネージャー候補、観光地域づくりプラットフォーム、観光圏協議会事務局



## 5. その他市町村又は都道府県が必要と認める事項

基本的な方針を踏まえ、以下の考え方にに基づき、社会資本整備事業との連携を図る。

### ①北海道横断自動車道 浦幌～釧路間の早期完成及び釧路～根室間の早期整備

【国土交通省】

北海道の主要な都市間相互のアクセスを強化し、経済、社会、文化など様々な分野における広域的連携・交流を促進する北海道横断自動車道 浦幌～釧路間の早期完成及び釧路～根室間の早期整備、・釧路外環状道路（釧路～別保間）の建設促進。

### ②道路網の整備促進【国土交通省】

高規格幹線道路網と一体となった地域高規格道路の整備により、東北海道圏域内の交流促進、交通拠点等との連結を図るとともに、空港・港湾などのアクセス強化、都市内交通の円滑化や、サイクルツーリズムの振興等を図り、地域経済の活性化を促進する道路網の整備促進。

#### ●地域高規格道路の整備促進

- ・釧路中標津道路の早期完成、道東縦貫道路の早期整備に向けた調査促進

#### ●国道の整備促進

- ・国道 3 8 号釧路新道（4 車）の建設促進
- ・国道 2 4 0 号の改良

#### ●道道の整備促進

- ・阿寒公園鶴居線の整備促進
- ・釧路環状線（釧路環状通、共栄橋通、愛国北園通、鳥取東通）の早期整備
- ・美原 I C（仮称）への適切な誘導のための道路案内標識の設置

#### ●北海道横断自動車道（阿寒～釧路間）の釧路空港 I C（仮称）設置

#### ●サイクルレーンの整備促進

### ③重要港湾釧路港の整備促進【国土交通省、農林水産省、財務省、法務省、厚生労働省】

大型外航旅客船に対応した C I Q 体制の充実。

### ④釧路空港の整備促進【国土交通省、農林水産省、財務省、法務省、厚生労働省】

東北海道の航空輸送拠点である、釧路空港の整備及び国際化の促進。

#### ●空港施設の機能保持・向上

- ・国土強靱化に資する、基本施設（滑走路）等の着実な更新・改良等
- ・ I L S カテゴリー II の運用も可能となる施設整備

#### ●国際化の推進

- ・ C I Q 体制の整備、充実

#### ●利便性の向上

- ・伊丹便臨時枠の 1 0 月までの拡大

- ・着陸料及び航行援助施設利用料の軽減

⑤鉄道輸送の安全性の確保及び利便性の向上【国土交通省】

J R北海道に対する事故防止策の強化についての指導と、技術的・財政的な支援強化の早期実施、利便性の向上等。

⑥阿寒湖畔公園整備事業の推進【環境省】

希少で優れた自然環境・景観等を有する阿寒国立公園において、阿寒湖温泉の魅力を一層高め、外国人旅行者にも対応した安心・安全な親自然活動と貴重な植生の保護・保全の両立、これによる国立公園利用者の増加や満足度の向上を図るため、阿寒湖岸遊歩道・湖畔公園の整備推進。

●湖岸遊歩道整備（ボッケ～滝口間：延長約3km）

木道・広場造成、案内・誘導サイン整備、駐車場整備

●湖畔園地の整備拡充（中央広場、湖岸遊歩道）

ボードデッキ、芝生広場、休憩舎等整備

⑦「阿寒湖及び周辺地域」の世界自然遺産登録に向けた支援・協力【環境省、林野庁】

我が国を代表する優れた自然環境を有し、世界的にも希少価値の高いマリモが生育する阿寒湖及び周辺地域の世界自然遺産登録に向けた支援・協力。

●マリモが生育する阿寒湖及び周辺地域の世界自然遺産登録に向けた支援・協力

- ・国内候補地の選定に向けた支援・協力

●マリモの保護活動及び学術的研究の推進

⑧アイヌ文化の活用と保存・継承に向けた施策の推進

【内閣官房、文部科学省、国土交通省】

アイヌ文化を活かした阿寒湖温泉地区の活性化及びアイヌ文化の保存と継承に向けた施策の推進。

●アイヌ文化を活かした阿寒湖温泉地区の活性化に向けた施策の推進

- ・アイヌ文化発信拠点としての「阿寒湖アイヌシアターイコロ」の活用
- ・「イランカラプテ」キャンペーン等によるアイヌ文化の普及啓発の推進

●アイヌ文化の保存と継承に向けた施策の推進

- ・「アイヌ古式舞踊」等の伝承活動への支援
- ・アイヌ語やムックリの創作活動等、アイヌ民族の歴史・文化への理解を深めるための学習機会の拡充への支援
- ・伝統的な生活の場（イオル）の再生

⑨地方バス路線の維持及び利便性向上【国土交通省】

観光地（施設）間を結ぶ地方バス路線の維持拡充に係る財政的支援等

